

27AB-pm308

いわき明星大学におけるイグナイト教育を基盤とする初年次教育の組織的展開：
フレッシューズセミナー（イグナイト教育 1A）の取り組みと効果の検証

○中越 元子¹、野原 幸男¹、角田 大¹、田島 裕久¹、江藤 忠洋¹（いわき明星大学薬）

【目的】「イグナイト教育 (IGNITE)」は、本来学生が持つ潜在能力に自己力で積極的に点火する（イグナイト）主体的な学びの育成である。アクティブラーニングを基本とする「イグナイト教育」は、初年次から3年次に亘る体系的で継続的な独自の教育システムであり、持続可能な自主的学習力、コミュニケーション力、そして課題探求・問題解決力の基盤を形成することを到達目標としている。

「フレッシューズセミナー（イグナイト教育 1A）」は、生徒から自ら学ぶ学生への変容を目指す入り口となる初年次教育科目として、「①薬剤師を目指す学びのための基礎力を身につける。②卒業後の目標に到達できるよう学生時代にするべき目標を設定する。③設定した目標に向かって主体的に行動できる習慣を身につけ、自己管理できるようにする。」という3つの教育目標を設定している。授業の企画・運営は、イグナイト教育委員会が中心となり組織的に展開している。今回は、9年目を向かえた初年次教育の新たな取り組みと学修成果・効果について報告する。

【方法】タブレットの活用により、ラーニングポートフォリオは紙ベースと電子のハイブリッド型とした。前期2コマ展開から後期1コマ分を増やし、2年次のイグナイト教育への接続を図った。また、2年次生をSAに導入し、ピアサポートを試みた。学修成果・効果の測定は、ポートフォリオおよび質問紙によるアンケート調査などにより実施した。

【結果・考察】授業コマ数の増加により、薬学への興味と動機づけを意識したプログラム内容が強化された。SAによるピアサポートは、初年次生と共にSA自身の成長を促した。学修成果・効果については、正課外学習時間の推移や教育目標の達成度などの観点から考察する。